

奈良県小学校理科教育研究会研究部

6月（第1回）研修報告

平成30年6月15日（金）於 奈良女子大学附属小学校

今回は

杉澤先生の授業について、女子大附属学習 研究集会の授業を通して研修をしました。

今月の研修は、奈良女子大附属小学校学習研究集会の授業のふりかえりを通して、杉澤先生がどのような視点で子どもたちを見て、授業づくりや教材研究をされているか研修をしました。子どもたち1人ひとりの学びができていく過程や、見方・考え方が育っていく様子について考えていく機会になりました。



ポイント①「1人ひとりの追究を大切に」

まず、**1つの対象をじっくりと見ることで見方・考え方がついていく**ことについてお話がありました。

例：スマレ…スマレは閉鎖花として花が開かないまま受粉することもできます。

熟した種子は、はじけて3mほどとびます。種子はアリが運んでいきます。

⇒子どもが注目するように教師が導きます。

1人ひとりが追究できるように、妥当性を教師がきびしく指摘していきます。

「本当に3mとぶの？」「アリはどのように運ぶの？」「何回観察したの？」

「根拠は？」「みんなに伝わるの？」

☆ 声かけやノートのコメントでフォローもしていきます。

次につながるようなコメントをしていきます！

「これはどうなっているの？」「どんな方法でやるの？」

「この考え方を使ってみたら？」

これをグループではなく、1人ひとりが行っていきます。

グループだと、温度差があり、友だちに依存してしまいます。



学習は「問い」から始まります。

子ども自身が論を立てます。「あなたはどう考えますか？」

科学的な追究を目指して、計画書を書きます。

「きよりは？」「人数は？」「具体的に！」

単に多い少ないでは漠然としているので、数値化していきます。

⇒データを使って語り合うことで、対話が生まれます。

「めあて」は1人ひとりがもつものです。

初めは「一生懸命に」「寝ずに」など、情緒的なものが多いかもしれません。

いつまでもこのようなめあてではなく、

良い意見を認めていく中で、「めあての質」を高めていきます。

⇒キーワードを伝える。「〇〇と△△は入れて考えましょう。」

ポイント②「カリキュラム・マネジメント」

合科的にカリキュラムを考えていくことです。

例：理科の天気と1日の気温＋算数の折れ線グラフ（4年生）
様々な子どもがいる中で、どのように授業を組み立てていくかが、これからは重要になってきます。教材ばかりを見るのではなく、子ども1人ひとりを見て、子ども自らが考えられるようにマネジメントしていくことが大切です。



また杉澤先生は、授業中の子どもたちの発言等を授業記録として残し、学級通信で発行しています。おもしろいと思った子どもの発言を、板書や記憶を手がかりに、その日のうちに記録しているそうです。忙しい中でも、自らの実践をふりかえっていくことも大切なのではないのでしょうか。

研究員の感想

○めあてやふり返り、カリキュラムマネジメントについて考えることができたことで、今後の授業に活かすことができそうです。

○めあてと課題をきっちりと書くことによって、学習の見通しを立てることができるとわかりました。

- 1年生から具体物で児童に語らせることが大切だと聞かせていただいたのが、目からウロコでした。自分の考えが持てない、書けない子どもたちへのヒントになりました。
- 子どもたちの熱意と杉澤先生の言葉がけが素晴らしかったです。まだめあてを考えさせられていないので、主体的に取り組ませるためにがんばってみます。
- 杉澤先生の授業を見せていただいて、「そうか。」がいっぱいになりましたが、考えをまとめて子どもたちに返していきたいです。
- 自分のクラスで子どもの聞く態度や、意見を持たせることに必死でしたが、おたずねの点をもっと深めていかないといけないなと改めて感じました。
- 児童が自分のめあてを持って主体的に学習するためには、まずは知識や学び方を身につけることが必要だと思った。
- 一人ひとりが理科的な追究をしているのが素晴らしいと思いました。数値にするなど、追究の仕方のヒントをいただけたいと思います。学級に対話する力をつけていけるようがんばります。
- めあての設定や授業づくりで大切なことをたくさん学ぶことができました。今の私の理科授業は、答えに向かって進んでいるだけだなと思うので、子ども主体の学習にしていきたいです。まずは学級づくりから見直したいです。
- 子どもの認知を高めるために対象物に目を向けさせたり、科学的な思考力を伸ばすために厳しい指摘をしたりすることで子どもが育つということがよく理解できました。そのために教師として子どもを見とり、引き上げる働きかけをしてあげたいと思いました。
- 対話を大切にしたい個の探究を支える教師のあり方については、ずっと課題に思っていたので、今日はたくさんヒントを得ることができました。
- 理科のみならず、全体に通った根本の部分がたくさん見つけられました。見通しが立てられる子どもを育てるとともに、自然事象の見方考え方をとことん追究できる手立てを少しずつでも考えていかなければならないと感じました。